

だいせん 市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS



大曲中がマーチングバンド全国大会で5連覇

第42回マーチングバンド全国大会（さいたまスーパーアリーナ）で、大曲中学校（上）が中学生の部大編成で最優秀賞に輝き、同部門で大会史上初の5連覇を達成。また、小学生の部小編成で花館小学校（左）が金賞、同大編成で大曲小学校（右）が銀賞に輝きました。

**米価下落に伴う緊急の
対応策を求める意見書
を可決** （第5回臨時会）

主な内容

CONTENTS

- 新年のあいさつ、第4回定例会概要 2～3
- 第5回臨時会概要、9人の議員が一般質問 4～8
- 議決結果、委員会審査のあらましほか 9～11
- 決算審査報告、先進地に学ぶ 12～14
- 市政懇談会報告、市民の声 15～17
- 3月定例会日程のお知らせ、編集後記ほか 18



大仙市議会
議長 橋村 誠

市民が安心して暮らせる 大仙市のために

市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい平成27年を迎え、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

また、平素より市議会に対し温かいご支援とご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、大仙市では、長年の懸案であった仙北組合総合病院の改築が行われ、大曲厚生医療センターとして、新しくスタートいたしました。また、現在は健康増進センターやこども園などが建設される南街区の工事が着々と進行しております。大仙市の中心市街地である大曲駅前のにぎわいが創出されるものと期待を寄せております。

大仙市議会では、平成23年10月に制定した議会基本条例に基づいて、市民から見える議会活動を主眼に議会改革を推進しております。昨年の3回目の市政懇談会では、人口減少問題、農業問題をテーマとして、市民の皆様から、様々

なご意見等をいただきました。いただいたご意見等は、議会内で調査検討し、市長へ要望するともに、議会内で政策提言に活用させていただきます。市長からの回答や協議した内容については、議会だよりやホームページで、随時お知らせいたしますので、ご覧いただきたいと存じます。

このところの社会情勢は、昨年4月からの消費税増税、為替相場における円安、米の買い取り価格の下落等により、消費を控えざるを得ない状況となっております。市民の生活がいくらかでも豊かになったと実感できる世の中になるよう、新内閣には大いに期待するところであります。

市議会といたしましても、市の財政状況が厳しくなるなか、市民が安心して暮らせる大仙市のため、議会活動を通して、努力してまいる所存であります。

今年、大仙市は10周年を迎えます。これまで以上に特色ある大仙市づくりに向けて、市民ニーズを把握し、「人が活き人が集う夢のある田園交流都市」進展のための取り組みをさらに成熟させ、市当局とともにより一層励んでまいり決意であります。

結びにあたり、市民の皆様のご多幸を祈念申し上げます。あいさついたします。

第4回定例会

11月28日(金)～12月17日(水) 20日間

第4回定例会は11月28日に招集され、12月17日までの20日間の会期で行われました。本会議1日目は議長報告、市政報告のあと、平成25年度各会計歳入歳出決算の認定についての委員長報告19件、人事案16件、報告1件、条例案3件、単行案2件、補正予算案11件についての審議が行われ、それぞれ認定・同意・承認・可決された後、当局から条例案5件、単行案18件、補正予算案2件が上程されました。本会議2日目は5議員、本会議3日目は4議員による一般質問が行われ、市政全般にわたって市当局の見解を質しました。また、本会議3日目に条例案、単行案、補正予算案、陳情が各常任委員会に付託されました。本会議4日目は各常任委員会からの報告を求め、条例案、単行案、補正予算案計25件を原案可決。また、陳情は1件を不採択とし、採択された7件については関係機関に意見書を提出しました。主な内容は次のとおりです。

条例案

▼大仙市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について(全会一致で可決)

健康保険法施行令の一部が改正され、出産育児一時金が見直されたことに伴い、所要の改正を行うものです。

〔改正内容〕
1、出産育児一時金(出産費分)の額の見直し(第4条第1項)

「39万円」を「40万4千円」に
改正(1万4千円増)

2、施行期日 平成27年1月1日

3、経過措置 施行日前に出産した被保険者に係る出産育児一時金については、なお従前の例による。

※現在、出産育児一時金は、条例で定める39万円(出産費分)に、3万円(産科医療補償制度掛金補助分)を加算した42万円を支給しております。

今回の改正により、出産費分は1万4千円増額の40万4千円となりますが、加算している産科医療制度掛金も改正され、1万4千円減額の1万6千円となることから、出産育児一時金の支給額は42万円となり現在と変更ありません。

『参考』産科医療補償制度の概要

産科医療補償制度は、分娩に関し発症した重度脳性麻痺の子どもと家族の経済的負担を軽減(総額3,000万円まで支給)するとともに、原因分析を行い、同様の事例の



▲本会議 起立採決の様子

再発防止に向けた取組を行うことにより、紛争の防止、早期解決及び産科医療の質の向上を目的とした制度です。

▼大仙市太田高齢者等活動・生活支援促進機械施設（敬愛館）条例の制定について（全会一致で可決）

▼大仙市太田北部地区多目的研修センター（太田北部センター）条例の制定について（全会一致で可決）

▼大仙市立太田農村環境改善センター（太田文化プラザ）条例の制定について（全会一致で可決）

▼大仙市多目的運動広場（太田球場隣接グートボール場及び北開グラウンド）条例の制定について（全会一致で可決）

指定管理者または市長のいずれかにおいても、管理することができるものとする。

No.	施設名	指定管理者	指定期間	※参考 H26指定管理料 (円)
1	健康文化活動拠点センター「ベアール大仙」	(株)TMO大曲	H27. 4. 1～H30. 3.31	6,400,000
2	協和内水面漁業近代化施設（畜養殖場）	庄内養殖管理組合	H27. 4. 1～H32. 3.31	2,191,271
	協和広場等利用施設（びんだれ園）			
3	太田地域農産物等活用型総合交流促進施設（太田交流プラザ）	太田町生活リゾート(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	839,007
	太田新興緑地広場（少年広場）			391,400
4	神岡生産物直売・食材供給施設（道の駅かみおか）	(株)神岡ふるさと振興公社	H27. 4. 1～H32. 3.31	0
5	神岡交流促進センター（かみおか温泉嶽の湯）	(株)神岡ふるさと振興公社	H27. 4. 1～H32. 3.31	0
6	西仙北ぬく森温泉ユメリア	新生ビルテクノ(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	17,928,000
7	中仙地域農業総合管理施設（道の駅なかせん）	物産中仙(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	18,263,250
8	協和温泉（四季の湯）	(株)協和振興開発公社	H27. 4. 1～H32. 3.31	2,370,000
9	南外ふるさと館	厚生ビル管理(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	14,458,000
	南外民俗資料交流館（※平成27年度より直営）			4,290,000
10	史跡の里交流プラザ「柵の湯」	(株)東北ダイケン秋田支店	H27. 4. 1～H32. 3.31	0
	仙北まがり家			
	仙北歴史民俗資料館			
	仙北民具資料館（餅の館）			
11	太田就業改善センター（中里温泉）	太田町生活リゾート(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	0
	太田ふるさと館			
	太田南部コミュニティ・センター			
12	太田交流の森	太田町生活リゾート(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	0
	太田レクリエーションの森			
13	大曲地域職業訓練センター	(職)大曲仙北職業訓練協会	H27. 4. 1～H32. 3.31	8,206,783
14	大仙市民プール	大曲スポーツクラブ	H27. 4. 1～H32. 3.31	4,228,149
	大曲体育館			10,317,657
	大曲武道館			1,726,629
15	西仙北緑地運動広場野球場	(株)オーエンス	H27. 4. 1～H30. 3.31	10,728,628
	西仙北緑地運動広場グラウンド・ゴルフ場			
	西仙北スポーツセンター			
16	太田トレーニングセンター	太田町生活リゾート(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	2,473,167
	太田体育館			9,642,177
	太田球場			6,779,389
	太田テニスコート			▲ 375,000
	太田多目的運動広場			66,286
	太田体育館クラブハウス			0
	太田多目的グラウンド（※平成27年度より直営）			71,280
17	大台スキー場	太田町生活リゾート(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	9,051,429
18	太田南部地区公園	太田町生活リゾート(株)	H27. 4. 1～H32. 3.31	4,549,000
	横沢東農村公園（※平成27年度より直営）			

▼指定管理者の指定について（関連議案18件全会一致で可決）

単行案

補正予算

▼平成26年度大仙市一般会計補正予算（第9号）（全会一致で可決）

歳入歳出予算総額に2億5,678万2千円を追加し、補正後予算の総額を49億9,226万3千円とするものです。

補正の主なものは、社会福祉法人が西仙北地域に整備している障がいと介護の複合施設建設に貸付を行う資金として地域総合整備資金貸付事業費1億4千万円、同法人に交付する障がい者施設整備事業費補助金2,507万3千円、保育士の処遇改善を行う市内社会福祉法人に対する補助金として5,005万8千円、学校施設天井等落下防止対策事業費として、市内13小学校分の経費708万3千円、中学校分の経費396万3千円、払田柵跡西側の史跡指定地内の一般住宅の改築現場で、新たに文化財である柵が発見されたことから、土地の買い上げ等を行う経費として643万6千円などとなっております。

▼平成26年度大仙市スキー場事業特別会計補正予算（第3号）（全会一致で可決）

大台スキー場指定管理料（平成27年度～平成31年度）の債務負担行為の設定限度額に2,991万6千円。

第5回臨時会

10月15日(水) 1日間

平成26年第5回臨時会が10月15日に1日の会期で招集され、単行案2件、補正予算案1件の計3件が上程され、原案可決、また、追加提案された委員会提出意見書案1件が原案のとおり可決されました。

▼財産の取得について(全会一致で可決)

消防団に給貸与している被服等のうち、活動服及びアポロキヤップを2,916万円で購入するものです。

▼西部学校給食センター建設(建築) 工事請負契約の変更について(全会一致で可決)

昨今の労務単価及び資材単価の急激な変動に伴い、契約金額を変更するもので、2,317万6千8百円を増額し、契約額を4億1,467万6千8百円に改めるものです。

▼平成26年度大仙市一般会計補正予算(第6号)(全会一致で可決)

8月の豪雨により被災した市道等の災害復旧経費や、米の概算金の大幅な下落により減収が見込まれる農業者等に対する県の無利子融資制度の創設に合わせ、これに係る信用保証料の市負担金などについて補正を行うもので、歳入歳出予算の総額にそれぞれ3億593万1千円を追加し、補正後の予算総額を492億759万9千円とするものです。

▼米価下落に伴う緊急の対応策を求める意見書(全会一致で可決)

国の収入減少緩和対策(ナラシ対策)の継続と、交付金の早期支払いなどを求めるもので、農林水産大臣などに送付しました。



▲被災した南外地域の市道

一般質問

9人の議員が市政全般にわたり市当局の見解を質しました。



大地の会 議員 石塚 柏

Q 大仙市に財政計画がないが必要ではないか
A 平成27年3月を目処に計画を示したい

質問 合併後10年が経ち、現在、新市建設に要した借金返済という重い課題を背負っている。県内各市では財政の分析・課題・方針をまとめた中・長期の財政計画を定めている。市では悪化していた実質公債費比率が改善したとして平成25年に公債費適正化計画を終了したが、その後、市には財政計画がない。平成28年度からの総合計画の裏付けとして、財政計画が必要ではないか。

市長 国は合併特例債の発行を5年間延長する。この特例債を使う新市建設計画に必要な財政計画を現在作成している。この財政計画は次期総合計画の基本となり、平成27年3月を目処に議会に示したい。

質問 実質公債費比率は高い数値が悪い状態を指す。全国の類似団体の実質公債費比率の平均は、平成20年度から24年度までの4年間で14.3%から10.3%と4%も改善している。一方、大仙市は平成20年度は18.9%で、24年度は18.4%と4年間で0.4%しか改善していない。翌年の25年度は17.6%と改善はしているが、類似団体と比較して改善の足取りは遅い。これからの財政改

善をどう進めていくのか。

市長 市の実質公債費比率が高いのは、合併前後の建設投資によるものである。平成25年度に18%以下に抑えたが、類似団体や県内自治体と比べると未だ高い。実質公債費比率は3ヶ年の平均値なので短期間での改善は見込めないが、年々改善すると見込んでいる。

質問 合併から10年間は国から財政支援を受けられるが、来年度から段階的に45億円の支援が減額される。この減額分と人口減少に伴う交付税減額が、次期総合計画の政策的経費にどの程度の影響を与えるのか伺う。

市長 財政支援は5年後にはなくなるため、合併した自治体は国に支援継続を働きかけている。その結果、当市でも支所経費を2ヶ所から7ヶ所に見直しされている。また、消防施設・公民館などについても見直され、45億円の6割程度は継続して支援を受けられる見込みである。しかし、交付税は人口減少の影響もあり、引き続き行政改革と財政健全化を進めてまいりたい。



公明党 秩父博樹 議員

質問

これまでの「自助・共助・

公助」に加え、住民間の信頼関係に基づくネットワークであり、目に見えない財産である「互助」による社会づくりを目指して、元気な高齢者が自身の技術や特技等を地域で生かす、大仙市版「マイスター制度」の導入を検討すべきと考えるが、見解を伺う。

市長

大仙市版「マイスター制度」の導入の検討については、一部、地方公共団体では「マイスター制度」を活用することで、観光や物産品などの分野において、卓越した技能や知識を得た人材を育成し、その分野を発展させるための取り組みとして行っているものと把握している。

少子高齢化が加速する現状の中で、「公助」や「共助」には限界があり、今後、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続していくためには、ボランティア活動や住民組織の活動など「互助」の占める役割は大きく、元気な高齢者がその担い手として活躍されることが期待される。

Q 元気な高齢者が自信の技術や特技等を地域で生かす大仙市版「マイスター制度」を導入してはどうか

A 埋もれている人材の発掘と、その活躍の場の仕組みづくりの中で「マイスター制度」も参考にする

市では、介護予防活動をサポートする「介護予防いきいき隊」や、認知症の方や家族を地域で見守っていく「認知症サポーター」、また、社会福祉協議会が養成している、日常生活の支援を行う「生活・介護支援サポーター」など、すでに地域で活動されている各種ボランティアの方々やシルバー人材センターなど、多様な人材の活用とともに、埋もれている人材の発掘とその活動の場の仕組みづくりの中で、「マイスター制度」についても参考にする。

※秩父議員はこの他、一人暮らしの高齢者や高齢世帯への対応について、介護・医療について、交通弱者支援及び公共施設等の障がい者・高齢者へのバリアフリーについて質問しました。



一般質問



日本共産党 佐藤文字 議員

質問

大仙美郷環境事業組合が発行する処理年報によると、焼却量は増加傾向、一般廃棄物最終処分場の埋立処理量も増加している。焼却施設の延命化と埋立量軽減のため、ごみの約4割を占め、かつ6割が水である生ごみを燃やさないことが重要と考える。生ごみの分別収集と堆肥化施設について具体的に検討すべきと考えるがどうか。

市長

生ごみの排出の実態として水分を多く含んでいるものが多く、水切りなどの対応により排出量を削減し、減量化の余地があると考える。現在稼働しているごみ焼却炉は当地域のごみの性状を調査したうえで設計されており、生ごみを分別するなどにより焼却するごみ質が大幅に変更となった場合、焼却効率が低下するばかりでなく、焼却炉の損傷を早める危険性が生じる。生ごみの分別については慎重に考えていかなければならない。

また、分別や収集運搬に要する経費、新たに堆肥化施設を整備する経費など、さらなる経費の増加が見込まれ、生産される堆肥の安定した流

Q 生ごみの分別収集と堆肥化施設の検討を

A ごみ焼却施設の性能上 慎重に考えたい

通ルートの確保や市民に分別作業の負担をお願いすることになり、理解を得ることや普及活動と労力が必要であることなどクリアすべき課題が多く、現段階では難しいと思っ

福祉灯油購入助成事業の実施を

質問

26年度の灯油価格は上半期の平均が昨年同期より高くなっている。消費税増税や年金受給額の減少など重なり、生活に追い打ちをかけている。低所得者や高齢者、障害者世帯へ福祉灯油助成事業を今年も実施するよう求めるがどうか。

久米副市長

宅配灯油の価格動向は、9月22日をピークに急激な値下がりが進み、昨年同期を下回り、消費税分も考え合わせると極めて大幅な値下がりである。継続して価格動向を注視するが、現時点では実施は考えていない。

※佐藤文字議員はこの他、ハウス農家への燃料費助成について質問しました。



大地の会
高橋幸晴 議員

Q 地域枠予算を一律
一千万円としたらどうか
A 評価を行ったうえで
増額も検討してまいりたい

質問 まち・ひと・しごと創生総合戦略に沿った地方版総合戦略を、当市ではどう考えているのか。

市長 現在、総合戦略に関する詳細や、国の具体的な支援内容に関する情報を鋭意収集しており、明らかになった段階で着手したい。また、次期総合計画の策定にあたって、総合戦略と整合を図ってまいりたい。

質問 人口減少時代に合わせた新たな価値観を生み出し、地域を新しくつくり替える地域活性化策を考えていかなければならない。早急に市内に人口減少対策プロジェクトチームを創設したらどうか。

市長 来年度、市内の20代・30代の若手職員から意見を聴き、勉強会を設けるなどして、地元定着・人口減少の抑制の施策として、次期総合計画に反映させてまいりたい。

質問 農業6次化に向けて、生産・加工・販売の各分野の組織づくりを進めるとともに、各分野に専門家・技術者の要請を図り、『農業6次化産業構想』を打ち出したらどうか。

市長 取り組みの方向や具体的な

支援の方策などを整理して、平成28年度を初年度とする次期農業振興計画に取り組んでまいりたい。

質問 認知症対策について何う。

老松副市長 来年度から、インターネットで簡単に認知症の傾向がチェックできる認知症チェッカーを導入するほか、認知症初期集中支援チームの設置などに取り組んでいく。

質問 放課後児童クラブの充実を考えては。

老松副市長 子どもたちが心身とも健全に発達するためには、幼少期の体験が大きく影響するので、的確な支援が行えるよう努めてまいりたい。



4月から、放課後児童クラブの対象児童が小学校6年生まで拡大されます。

一般質問



だいせんの会
古谷武美 議員

Q 国民文化祭を終えての
今後の取組について
A 国民文化祭を契機に次世代育成
を図る事業を計画していく

質問 「囲碁サミット2014 in 大仙」で開催された各事業の今後の実施方針について何う。

市長 開催された各事業については、「子ども指導囲碁」を継続し、「子ども囲碁大会」や「囲碁合宿」を開催し、世代や地域を超えた交流を目指し、サミットで志を一にしている全国自治体とも交流の輪を広げて行きたいと考えている。

質問 「秋田の美×写真の力」で開催された各事業の今後の実施方針について何う。

市長 プレイイベントで実施した「こどもカメラマン教室」と「指導者育成教室」を継続開催し、次世代を担う子どもたちへの撮影指導者育成を図りたい。

質問 「旧池田氏庭園秋の園遊会」で開催された各事業の今後の実施方針について何う。

市長 旧池田氏庭園にマッチした伝統文化や郷土芸能により和の心を演出し、日本古来の美意識や風情を感じていただく場を提供したが、引き続き、他の分野からの出演も取り入れた園遊会を、各団体や教育機関と連携しながら開催したいと考えて

いる。大仙市を代表する国指定名勝旧池田氏庭園に癒し空間を創造し、訪れる皆様に大仙市の文化を堪能いただける場としてアピールしてまいりたい。

質問 「伝統×挑戦 日本の花火・大曲の花火」の今後の実施方針について何う。

市長 「国民文化祭」を盛り上げ、今後の文化振興に結び付ける県民参加事業として開催されたもので、「日本の花火」と「大曲の花火」の歴史を振り返り、そして未来について考えるという、これまでにはない花火の祭典であった。

わずか1時間あまりの花火ショーだったが、約3万人の方々が観賞された。国文祭に花を添えながら「大曲の花火」をPRし、花火の歴史・未来を学び、かつ、大きな経済効果があった素晴らしい事業であったことは十分に認識している。

市としては、地域経済と交流人口の拡大等への波及効果が期待されることから、大曲商工会議所をはじめとする関係団体と内容を詰め、実施に向け、県の補助制度の活用を含めて推進していきたいと考えている。



市民クラブ
佐藤隆盛 議員

Q 農政に関する市長の見解は

A 国民への安全・安心な食料提供を政策の基本にすべきと考える

質問 農業が基幹産業である大仙市において、大規模化・産業化を目指す現在の農政は農家・農村に戸惑いと不安を与えているが、季節出稼

ぎや兼業で地域を支えてきた中小稲作農家を守り、地域の衰退を防ぐためには何をすべきか、市長の見解を伺う。

市長 国は農業の競争力の強化を図り、成長産業化を促すプロセスにおいて、農業の大規模化やコスト削減により生産費の4割を削減することを目標に掲げ、施策の展開を図ろうとしているが、はたして実効性があるのかどうか見えてこないことから不安を抱いている。

この難しい局面において地域農業を展開していくうえでは、産業政策としての農業と、農村の有する多面的機能の維持・発揮などの地域政策を車の両輪のごとく推進していく必要がある。

産業政策を重視するあまり、中小稲作農家を切り捨て、農村地域社会が崩壊したのでは本末転倒であり、食糧の自給を原則に消費者の立場を

尊重し、農業は国民に安全・安心な食料を継続的に提供することを政策の基本に据えるべきと考える。

安全対策に係る事業の早期執行について

質問 市民生活の安全にかかわる事業については、年度初めにできるだけ早期に点検を行い、6月を目途に修繕・整備を完了するべきと考えるがいかがか。

久米副市長 年度初めにおける早期の点検・整備が肝要と考えており、債務負担行為の設定等様々な手法を活用しながら、道路補修が必要な路線を除くグリーンベルト等区画線の設置については、5月までに期限を定め、事業執行に努めるほか、街路灯、その他についても速やかに適切な対応策を講じてまいりたい。



一般質問



大地の会
佐藤育男 議員

Q 座間市との友好交流都市協定を結ぶにあたり今後の交流をどう進めていくのか

A 両市の発展、地域活性化のため官民レベルで交流をますます盛んにしていく必要がある

質問 座間市と友好交流都市協定を結ぶにあたり、将来的にどのような交流が想定されるか市長の考えを伺う。

市長 行政同士による交流のみならず、大仙市民に広く座間市を知っていただき、市民レベルの交流をますます盛んにするよう努める必要があります。それが、ひいては座間市・大仙市双方の発展と地域活性化に寄与するものと考えている。将来的には市民や民間交流団体が主体となつて、より自由な交流をはじめ、座間市を介して近隣自治体への広域的な波及効果を期待しながら、事業推進を目指してまいりたい。

市道の改良及び補修について

質問 大曲駅周辺の開発事業により予算圧縮され、遅れていた中心部以外の市道の改良を進めてほしい。

久米副市長 平成26年度からは、国の補助事業である防災・安全等の交付金事業を積極的に活用した舗装や橋梁の維持修繕事業に着手している。今年度の交付金事業が4億円規模であり、さらに27年度は8億円を

超える事業費を国に要望している。今後、大仙市全域の整備水準の平準化と整備基準の統一化を図るとともに、現在、「大仙市道路整備に関する指針」の改訂を進めており、事業の緊急性・必要性を判断しながら、必要な事業には重点的に予算を配分したい。

質問 市道で舗装の老朽化に伴う破損部分が年々増えており、危険な状況にある。これを集中的に修繕できないか。

久米副市長 幹線道路には防災・安全社会資本整備交付金を活用した路面修繕事業により集中的に事業を実施することとしており、交付金の対象とならない生活道路には、今年度新たに体制を構築した直営の舗装作業班を全地域に派遣し、部分的なオーバレイ舗装により対処したいと考えている。危険箇所や緊急補修を必要とする箇所に柔軟に対応可能な自由度の高い補修予算を各地域ごとに配分し、地域の枠にとらわれず重点的に予算配分を行い、歩行者や車両の通行の安全性を確保し、市民生活の安定化に努めていく。



新政会
小山緑郎 議員

Q 法隆寺大野管長の講演会等
企画してみても

A 展示や顕彰活動の課程で
考えてみたい

質問 鈴木空如について広く周知していただくため、法隆寺の大野管長等の講演会を企画してはどうか。

市長 国民文化祭応援事業の「鈴木空如展」には11日間で1660人の見学者があり、市外県外の見学者が多かったことは、新聞・テレビの報道もあり、確実に鈴木空如が知られてきたことによる。今後も調査研究や作品整備、人物顕彰など継続的に実施することが重要である。展示や顕彰活動を積み重ねていく課程で、法隆寺との関係を広く周知できる講演会なども視野に入れ考えてみたい。



▲鈴木空如の法隆寺
金堂壁画模写
(6号大壁 阿弥陀浄土図)

国民文化祭を振り返って

質問 県からの支援を要望し、継続して実施することを考えてはどうか。

か。

市長 県国民文化祭事務局より、次年度以降の意向調査があり、大仙市では次年度に繋げていく事業を計画したいと回答した。将来に繋げていく文化事業の開催により、50年に1回しか巡ってこない国民文化の祭典を市民の心に長く留めるとともに、今後の大仙市の文化の継承発展の原動力となるよう努めてまいりたい。

座間市との交流について

質問 合併10周年を機に座間市と友好交流都市協定を結ぶことから、座間市を訪問し、さらなる交流を深めるべきと考えるが見解を伺う。

市長 本年10月には、本市との友好関係をさらに築きたいと座間市議会の皆様が本市を訪問された。両市の議員交流はお互いのまちや人を知ることによって刺激しあい、双方の市政発展に貢献するものと考えている。訪問計画について議会と相談させていただきたい。

一般質問



大地の会
本間輝男 議員

Q 市農業の組織化と
育成対応を問う

A 組織化を強め、水田を有効
活用した環境整備に努める

質問 米価下落により法人・集落営農・大規模農家ほど深刻な状況にある。経営体の組織率は向上すると思うが、地域に合致した力強さが求められる。支援強化と育成の方向をどう捉えておるか。

市長 11月現在、当市で77農業法人、50集落営農組織、1350認定農業者が存在し、規模拡大と効率化の実現を目指し、担い手の育成・確保を図っている。

農業の組織化を強め、広範な水田の有効活用を進めながら、持続可能な農業の実現に向け、所得の確保と経営の安定化など、経営体質の強化を支援し、法人化支援センターの充実に努めていきたい。

質問 米依存からの脱却に向け、後継者育成と支援は必要不可欠である。積極的支援体制の強化策を伺う。

市長 地域農業の次代の担い手育成が重点事項である。37名の市農業施設研修修了生が就農を開始しているほか、「農業元気賞」の受賞者23名も地域農業を牽引し活躍している。また、青年就農給付金制度を活用し、45名が県・市などの支援を受け、意欲的に取り組んでいる。引き続き支援していく。

質問 米偏重からの転換は待たない。農家は、情報と技術と助言を求めている。農業総合指導センターの組織拡充と強化を。

市長 農業の現状を考慮し、大仙市農業団体連絡協議会等へ名称変更し、農業指導推進の強化を図っていく。併せて、県・JA等の連携、東北農研機構の協力を得ながら、技術指導の充実に努めたい。

質問 国・県補助金制度は制約が多く、意欲的生産組織・個人は利用しにくい。市単独補助金制度創設と地域密着型の補助形態を強く望む。

市長 規模拡大など意欲的に取り組む経営体を支援する補助制度を別途創設し支援する。複合部門にかかる農機や施設等の導入経費軽減を進め、市補助金制度の拡充を推進する。

※本間議員はこの他、平成27年度予算編成方針の歳入見通し及び歳出削減について質問しました。

◆委員会審査のあらまし◆

上程された議案は関係各委員会に付託され、審査が行われました。各委員会での主な質疑は次のとおりです。

総務民生常任委員会

専決処分報告1件、条例案4件、補正予算案4件、陳情3件を審査しました。

一般職の給与改正の実質は

【問】一般職の給与改正は附則の規定により、平均2%の引き下げは事実上5年間行わないと捉えてよいのか。

【答】条例の施行日が平成27年4月1日なので、施行日前日に在職している職員は現給を保障するものである。4月1日以降採用される職員は新しい給与表が適用される。

出産費用の実額はどのくらいか

【問】出産育児一時金の見直しで39万円が40万4千円に引き上げになるが、実際の出産費用・分娩経費はどのくらいかかるのか。

【答】医療機関によりバラツ

キがあるが、通常の出産費用で40万円前後である。

源泉所得税追納事例の今後の影響は

【問】源泉所得税は、今後事務手続が膨大で複雑になるのではないのか。

【答】今後は地域協議会等の講師謝礼も含め、事務負担が多くなる。

【問】今回の事例対象者が、未納者と誤解されることもある。市民に説明するべきではないか。

グリーンベルトの耐用年数は

【問】グリーンベルトの耐用年数はどのくらいあるものか。

【答】除雪の方法等により異なるが、2〜3年が目安となる。

【要望・意見】グリーンベルトは通学路であることを示す方法として有効である。学校に近い道路だけでなく拡大してほしい。



▲通学の安全を守るグリーンベルト

企画産業常任委員会

条例案1件、単行案13件、補正予算案1件、陳情2件を審査しました。

指定管理者の指定について

【問】太田地域の通称「敬愛館」の施設を、27年度から集落等に無償譲渡する考えはなかったか。

【答】敬愛館は太田東部の基幹的な集会施設で、広域的に利用されており、27年度から

は市が直営で管理する方向で、譲渡の検討はしていない。

では1000人を目標としている。

【問】ペアーレ大仙の利用向上のため、どのような施策を行っているか。

【問】座間市との友好交流都市締結式に座間市より来る人数と、その費用はどこが支払うのか。



▲熱心に受講する受講生の皆さん

大仙市誕生10周年記念式典及び座間市との友好交流都市協定締結式経費について

【問】大仙市誕生10周年記念式典の参加者は、どれくらいを予定しているか。

【答】5周年記念式典時は791人で、10周年記念式典



▲昨年10月、座間市議会議員の皆様が、本市を訪問されました。

元気な中山間地域農業応援事業について

【問】選定方法は、どのようにして行われたのか。

【答】農林統計上の山間地域である協和船岡、南外小友の2地区と、振興山村と特定農山村の2つの条件を満たす西仙北土川、協和荒川・峰吉川の3つの地区が県から指定されている。

教育福祉常任委員会

条例案3件、単行案4件、補正予算案6件、陳情4件を審査しました。

市民プール等の指定管理について

【問】 経費的に、大曲体育館・武道館の清掃業務は指定管理に含まれていなかったが、今回新たに含むことよっての増額か。

【答】 市が本庁舎と一括で清掃業務委託契約を結び、行っていた。平成27年度から責任の所在を明確にするため、管理料に含み指定管理者が行うこととし、その分増額となっている。

西仙北緑地広場野球場の指定管理について

【問】 営業努力で利用料収入を増額させ、指定管理料を減額申請させたとのことだが、計画どおり伸びなかった場合はどうなるか。

【答】 営業努力により実績を伸ばすことで、指定管理料を減額することが可能である。仮に実績が伸びなくても、指定管理料に変更はない。

法人立保育所補助金・法人立幼稚園補助金について

【問】 保育士等の処遇改善を行うための経費であるが、若い保育士が職場を離れるのは賃金の問題だけではない。もう少し現場を見ていただき、人的配置も含め、改善が必要と思うが。

【答】 処遇改善については、平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」において、国等からの運営費に含まれ、改善されると期待している。市の指導監査において、書類整備の時間が非常に多い実態が認められた。引き続き業務改善について指導していく。

学校施設天井等落下防止対策事業費について

【問】 体育館の照明で暗い所がある。これを機会に照明器具の清掃等をしていただけないか。

【答】 この事業は照明器具も該当になっているので、LEDに取り替えを行っていきたい。

建設水道常任委員会

単行案3件、補正予算案8件を審査しました。

太田南部地区公園・横沢東農村公園の利用について

【問】 この2つの公園は、主にどのように利用されているか。

【答】 これらの公園は一体で「横沢公園」として親しまれ、地域の花の拠点で、スイセン・桜・菖蒲などの花々が四季折々に見られ、訪れた方々の癒しの場として利用されている。また、公園内の池には、スギナモ・ミクリといった希少な水生植物、イバラトミヨなど貴重な淡水魚が生息しており、子どもたちの自然観察の場としても利用されている。



太田南部地区公園・横沢東農村公園(横沢公園)のスイセン

議会のうごき

25日	17日	15日	10日	9日	8日	28日	24日	21日	19日	17日	14日	11日	10日	7日	6日	5日	4日	30日	29日	27日	25日	24日	23日	21日	20日	16日	15日	11日	8日	7日	6日	2日	1日				
企画産業常任委員会「所管事務調査」	議員全員協議会・議会報編集委員会	第4回定例会(第4日)・会派代表者会議・議員説明会	議会運営委員会	第4回定例会(第3日)・議員全員協議会	第4回定例会(第2日)・議会改革推進会議	第4回定例会(第1日)・議員全員協議会	日本共産党「行政視察」(26日)	教育福祉常任委員会「行政視察」(26日)	議会運営委員会	建設水道常任委員会「所管事務調査」	教育福祉常任委員会「所管事務調査」	決算特別委員会全体会、秋田県市議会議長会議員研修会	決算特別委員会分科会	決算特別委員会全体会・分科会・会派代表者会議	愛知県一宮市議会行政視察来庁	千葉県船橋市議会行政視察来庁	北海道北見市議会行政視察来庁	新社会・市民クラブ「会派合同行政視察」(6日)	奈良県生駒市議会行政視察来庁	企画産業常任委員会「所管事務調査」	佐賀県唐津市議会行政視察来庁	議会運営委員会「行政視察」(29日)	教育福祉常任委員会「所管事務調査」	決算特別委員会正副分科会会長会議・議会報編集委員会	静岡県沼津市議会行政視察来庁	愛媛県議会、愛知県江南市議会行政視察来庁	鳥根県江津市議会行政視察来庁	総務民生常任委員会「所管事務調査」	千葉県野田市議会行政視察来庁	だいでんの会「行政視察」(18日)、	第5回臨時会・議員全員協議会・議員説明会	長崎県島原市議会、山形県庄内町議会行政視察来庁	神奈川県座間市との友好交流事業(12日)	議会報編集委員会	議会運営委員会・議会改革推進会議	熊本県山鹿市議会行政視察来庁	愛知県犬山市議会行政視察来庁

平成25年度決算を認定



市長特別委員で審査内容の述べる渡邊秀俊定例会第4回

決算審査を終えて

監視と評価の権能を有する議会の使命を果たすべく、「計画・実行・評価・改善」について資料により審査いたしました。

総括として、財政は実質公債費比率及び将来負担比率が予定より早く改善されていることは評価できるが、今後合併特例期間の終了による地方交付税の減、人口減少による地方税の減が見込まれることから、引き続きなお一層、財政の健全化に取り組んでいただきたい。

また、事業実施にあたっては、予算執行状況を常に確認し、適切な事業遂行に努め、計画した実績に満たない事業については検証を行い、市民にとって効果的な事業となるよう不断の見直しを図らねばならない。また、市単独の補助事業については、計画

と実績の審査が十分になされているか内容を確認・検証されたい。さらに、収入未済額については、市民の公平性が保たれるよう配慮し、自主財源の確保のためにも滞納整理を進めていただきたい。

平成27年度予算への反映はもとより、指摘された施策の改善、評価の高い施策の推進拡大に一層努めていただくことを望みます。

今後とも、市当局と議会がお互いに努力を惜しまず、市民からの負託に応えるまちづくりに進進します。

平成25年度決算審査結果（経緯）

平成26年第3回定例会第3日目に平成25年度一般会計歳入歳出決算の認定、平成25年度各特別会計歳入歳出決算の認定19件が上程され、議長、議会選出前、現監査委員3名を除く25名からなる決算特別委員会を設置し、各常任委員会委員を持って構成する、総務民生、企画産業、教育福祉、建設水道の4つの分科会を設置し、各所管に準じた審査項目を担当し、専門的な審査を行ないました。

審査は11月10日から14日の5日間委員会及び分科会を開催し、最終日の14日には各分科会会長報告、質疑、討論、表決を行ないました。一般会計では反対討論があり、表決の結果賛成多数で認定すべきものと決しました。各特別会計では、討論はなく

全会一致で認定すべきものと決しました。

◆各分科会の主な決算審査意見は次のとおりです。

◆総務民生分科会

①単独補助金や負担金、公共施設の見直しなどに着手しているが、市民目線での評価によることとし、引き続き厳しい財政状況を全庁で共有し、財政運営の健全化に努められたい。

②定員適正化計画により平成30年までに職員の削減を図っているが、最小のコストで最大のサービスを目指すことはもとより、市民の身近にある支所の業務能力がより充実するような行政改革、人員配置に努められたい。

◆企画産業分科会

①むすび・サポート事業については、若者のいる事業所でのイベントや脱少子化に向けた取り組みの周知により、若者の意識改革を図り、市全体を盛り上げていただきたい。また、結婚相談員の精神的・経済的負担の軽減のため、より一層の支援に努められたい。

②基幹産業である農業の育成のため、意欲ある農業者への稲作用機械

への補助制度の創設を検討されたい。また、大豆・野菜・果樹の普及、加工部門へのさらなる支援に努められたい。

◆教育福祉分科会

①ガンの検診率が20%台に低迷している。ガンの早期発見・早期治療に結びつく啓発活動とともに受診率向上に努められたい。

②奨学資金貸付金について、就職難などのため予定どおりの償還ができずに、基金残高が減少している。しかし、その目的を尊重し、若者の将来の夢を叶える一助として重要であることから、基金の体制固めに努められたい。

◆建設水道分科会

①年度中盤の9月においても50%の執行率となつている交通安全施設整備費は、春先の早い段階で施設の設置・修繕・整備に取りかかるように努められたい。

②水道使用料の徴収について、本庁と支所の連携を密にし、給水停止制度の活用等により、収納率の向上に努められたい。また、下水道事業の運営の健全化を図るため、加入率の向上、使用料の収納になお一層励むよう努められたい。

先進地に学ぶ

▼企画産業常任委員会

◆農業の見直し、活性化について学ぶ

10月20日から22日の3日間、兵庫県西脇市、加古川市を訪れ、行政視察を行ってまいりました。

西脇市は、農業としては小規模で、主に酒米や黒豆を中心に作付されている状況で、新たな産業として農業の見直しを必要がでてきたことから、新たな農業振興計画の策定を市民の目線に添って計画されており、参考になりました。

次に加古川市の志方東営農組合は、昭和56年から活動してきた14地域の集落営農が集結し、平成20年から農事組合法人として活動しております。ここでは農地がほとんど無償で提供される利用権設定になっており、地域を巻き込んで景観作物を20ヘクタール作付し、地域の活性化に貢献するなど、農業を地域コミュニティの一環として捉えていると感じてきました。



▲志方東営農組合 黒田代表理事より説明を受ける

農業の大切さや、農業が見直しされているというように改めて実感してまいりました。

(委員長 高橋幸晴 記)

▼教育福祉常任委員会

◆鈴木空如の画業を巡って

11月24日に奈良県の法隆寺を訪ねました。鈴木空如は生涯3回にわたり壁画を模写しております。今年法隆寺展にて作品が展示され、そのご縁で今回の訪問となりました。世界文化遺産である法隆寺には国内外から年間約90万人が訪れており、仏画・歴史・文化に興味ある多くの人に、当市にも足を運んでいただくための周知努力の必要性を感じてきたところです。

◆国民文化祭の成果とその後 の取り組みについて研修

11月25日に京都府長岡京市を訪ねました。長岡京市では平成23年度に国民文化祭がおこなわれましたが、一過性の祭りでは終わらず、引き続き音楽のまちづくり事業として継続されておりました。特徴として京都府から補助金があり、事業も充実して継続でき、市民の皆様にご喜んでいただいているとのこと。近隣市町村とともに、文化の祭典を継続していくよう議会でも活動してまいりたいと思っております。

(委員長 小山緑郎 記)



▲長岡京市で研修を行う教育福祉常任委員

▼議会運営委員会

◆議会のネット配信について学ぶ

当委員会では、大仙市議会として市民の方々に対する情報提供を、市のホームページ・議会報・市政懇談会等で行ってはいるものの、まだまだ不足であり市民に開かれた議会には程遠い現状であるとの認識から、本会議の模様をネット配信し動画による中継をする事により、市民の方々に議会に対する関心をより多く持つていただきたいとの思いを実現させるべく、ネット中継の先進地である鹿児島県霧島市議会と長崎県諫早市議会を視察研修させていただきました。

霧島市では、議会の模様をインターネット中継（ライブ配信・録画配信）により数年前から実施しており、現在は会議録検索システムの導入や議会の録画中継をユーチューブで公開し、議会だよりをスマートフォンから閲覧可能とするため電子ブック化しております、スマートフォンやタブレット端末等の急速な普及により今後これら端末からの

ニーズの高まりが予想され、これらを使いこなせる若い世代が市議会に興味を持つてくれるきっかけづくりをしていきたいとのことでありました。

諫早市では、当初本会議及び予算決算委員会を十数年前からケーブルテレビで生放送していたが、現在は本会議・予算決算委員会ともインターネットによる生放送・録画放送で配信しているとのことでありました。

両議会を視察研修させていただきました。大仙市議会としてもネット中継が必要であると強く感じた次第であり、平成27年度中には実施できるよう努力してまいります。

(委員長 武田 隆 記)



▲霧島市での研修の様子

会派行政視察報告

◆新政会・市民クラブ会派合同行政視察

製材所からの廃棄物や、今まで捨てられていた山林の木材を利用することで、雇用の場を確保している岡山県真庭市のバイオオマスタウンを視察しました。

木材の燃焼による工場で使用する電力の自家発電、公共施設へのペレットボイラー利用、集積材の製造で建築推進、民間・金融機関・行政のバイオマス発電による21億円の売電計画等々徹底した森林の活用で、視察が絶えない「まち」に活力を見いだしてきました。

空き家を利用した福祉施設を運営している、広島県三次市・庄原市にまたがる社会福祉法人「優輝福祉会」。笑顔と感謝の心で、若者や障害者を積極的に雇用している経営姿勢に感心。ただ、空き家利用には改装に多大な費用がかかることから、物件をよく吟味する必要があるとのこと。農家で余っている野菜を買い取って施設の食材に充てているのは、当地でもすぐできそ

う。
1400ヘクタールの敷地で稼働する福山市の西日本製鉄所では工場を案内され、「鉄は国家なり」を思うとともに、日本の底力を実感してまいりました。



▲真庭市役所前にて

◆だいせんの会行政視察

平成26年10月16日～18日、財務省への陳情と「大仙市ふるさとフェア」に行つてきました。

地元出身の御法川財務副大臣(当時)への陳情でしたが要望書を直接副大臣に渡し内容を詳しく伝えられたことは大変意義があつたことだと思ひ、また、大仙市民の願いが伝わつたと思ひました。

今回の陳情は「国道13号線

協和地区の早期4車線化の実現」「南外バイパス早期完成」「角間川親水公園(旧横手川)に排水ポンプの常設でした。」「大仙市ふるさとフェア」では、有楽町駅前が一日中「大曲の花火」のような人混みの中で、大きな声で「秋田県大仙市です」「いらつしやいませ」と呼びかけると、多くの人達に立ち寄つていただけました。また、声を掛けてくるお客様も多く、大仙市のPRができたと感じました。特に「ふるさと」の文字と「秋田なまり」での呼びかけが、都会の皆様の人に伝わつたのではないかと思います。



▲御法川財務副大臣(当時)に要望書を手渡す

◆日本共産党市議団行政視察

日本共産党市議団は11月25日、鹿児島県志布志市を訪ね、ごみの分別とリサイクル事業について視察してきました。

志布志市は焼却場を持たず、全てのごみを埋め立て処分していましたが、埋め立て処分場は平成16年度で満杯になる計画であつたことから議論を重ね、「分別によるリユース・リサイクル」の道を選択しました。

平成12年度から、19品目の分別収集と民間会社である「そおりサイクルセンター」での資源化を開始し、4年で埋め立てごみは半減しました。平成16年度からは、生ごみの分別収集を週3回行うことで埋立量は激減し、以来75%前後の高いリサイクル率を保ち、8年連続で市レベルで日本一のリサイクル率となつています。

生ごみは1日あたり5t×8t回収され、そおりサイクルセンターが運営する堆肥化センターで、剪定された木など1対1の割合で混合し、ヨモギから作った発酵剤により、4ヶ月かけて熟成した「お

に変わります。この堆肥が大変好評で生産が間に合わない状況とのことでした。徹底した分別収集により、埋め立てられるごみは減少し、処分場は今後40年～50年は大丈夫とのことでした。

大仙市は、ごみ排出量と最終処分場への埋立量は増加傾向にあり、ごみ処理施設の延命化、ごみの減量化、循環型社会形成にとって、志布志市の取り組みは学ぶ点が多く、充実した研修となりました。



▲4ヶ月かけて熟成生産された堆肥「おかえり循ちゃん」

「市政懇談会」における市行政に対する要望等の回答（市長より）

6月23日～27日まで開催した「市政懇談会」において、市民の皆様からいただいたご意見・ご要望のうち、以下の要望等について、10月15日、市長へ要望書を提出し、11月28日付けで回答を得ましたので、ご報告いたします。また、市民の皆様から開催のご要望があれば、いつでも皆様のところへ出向きますので、お知らせください。

No.	開催場所	いただいたご意見	市長からの回答
1	南外地域	大潟村だけが人口増加していくのは、所得水準が高いことだけが理由でないような気がする。大潟村が人口増加する理由をしっかりと調査することが今後の施策に役立つと思われるので調査すべきと思う。	市では現在、定住移住の促進に関する庁内検討会議を立ち上げ、人口減少に関する検討を行っています。大仙市の状況に加えて、大潟村の状況についても調査・分析を行い、今後の施策の参考にしたいと思います。
2		人口減少が進むと国保の負担が大きくなり大変であるが、その対応を考えているのか。また、医療費の削減には予防が大切と思う。予防医療に力を入れていくべきと思う。	市では、「国民健康保険事業運営安定化計画」を策定し、医療費の適正化と健康づくりの推進に努めており、今後も各種がん検診や特定健康診査を受けやすい体制を整え、予防医療の取り組みを強化してまいります。また、市町村国保の運営が厳しい状況にある中、本市等の提案により県内全市町村で組織する「秋田県国民健康保険事業広域化研究会」が設立され、県単位での広域化の早期実現に向けて検討が始まっております。
3		収入と人口増は大いに関係があると思う。南外は高齢者が多く年金収入が頼りである。自立することは大切であるが、起業するための補助金があるにしても自己資金が問題でなかなかできない。何か高齢者向けの収入源のアイデアはないか。	長年培ってこられた知識や技術を行かして働く手段としては、シルバー人材センターへの登録があります。また、起業については、新製品の開発等を支援する各種制度を活用しながら、地域の方々などと一緒に起業することで、負担を分け合うという方法もあります。
4		市の各種審議会等の委員を見ると高齢者が多い様な気がする。若い人をもっと入れるべきと思う。	市の審議会等の委員には、それぞれの設置目的に応じた年齢層の方を委嘱していますが、若い方からも様々な形で広くご意見等をいただき、市の施策に反映させていきたいと思っています。
5	サンクエスト大曲	JAのあり方についてこの地域には米の研究会がいくつかあり、それぞれ活動をしているが、JAとしては米の研究や販売戦略が遅れているのではないか。秋田は生産そのものよりも販売に対する政策、統一されたものがないように感じる。行政として指導や助言、県への働きかけなどの計画は考えているか。	全国的に米の需要が低迷し、低価格競争が激化する状況下では、米の販売戦略をより強化するとともに、米に依存した農業構造から脱却する必要があると考えていますが、その取り組みにあたっては、県やJAを始め、関係団体と協議の場を設けて、十分連携を図っていきたいと思っています。
6		『大曲の花火』の火薬が屋根に落ちてトタンがサビやすくなっている。	先般、損害保険鑑定士等が行った鑑定により、花火の燃えかすによる周辺への影響はないとの結果を得ていますが、大曲の花火の開催にあたっては、近隣住民の皆様のご理解・ご協力が不可欠ですので、今後もご要望等があればできる限り対応したいと思います。
7		誘致企業対策について、自分はいい話をしているつもりであるが、大仙市からは全く返事がない。大仙市は本気で取り組んでいるのか。	市では、地域の雇用を担う地元企業に対する支援を行うとともに、新たな雇用の創出のための新規企業誘致に向けて、あらゆるきっかけや情報を基に対策に取り組んでおります。今後とも市民並びに企業関係者とのネットワークを大切にしながら活動を進めて参ります。
8	県内の平均寿命が他県に比べ短い。また、健康診断の受診率も低いのが対策はどのようになっているか。	市では、がん検診の申込者のうち未受診の方へ電話での受診を勧奨する「コール・リコール推進事業」を実施しているほか、子宮頸がん検診等を市内の医療機関で受診できるようにし、また日曜検診や追加検診を実施するなど、受診率の向上に努めています。また、平成23年度からは市独自の新たな検診方法として大腸がん検診研究事業に取り組んでおり、県内でも上位の受診率になるなど、がん死亡率の減少に努めております。	
9	園芸メガ団地のような取り組みを各地域でできないものか。	園芸メガ団地整備事業は、その規模の大きさから短期間で整備を完了させることができず、現在も県内7カ所で整備を終えていない段階です。このため、現時点では他の地域での新たな採択は難しいですが、この事業以外にも、国や県・市で生産施設の整備や農業機械の購入を支援する制度がありますので、そちらもぜひご検討ください。	
10	1) 男性の寿命が短い。何か対策が必要ではないか。 2) 認知症の対応について、現在の予算で間に合うか。また、床数が足りないのではないか。	市では、死亡原因のうち大きな割合を占める生活習慣病の早期発見のため、特定健康診査等を受けやすくする等の取り組みを行っています。また、国の認知症施策推進5ヶ年計画（オレンジプラン）に基づき、認知症の予防・啓発や、認知症の方のご家族を支える事業等を行っているほか、認知症のケアを提供する介護保険施設などの整備を計画的に進めることとしています。	
11	大曲厚生医療センターの職員（看護師）の対応、言葉使いが良くない。市も深く関わっているので、働きかけてほしい。	市と大曲厚生医療センターでは、「大仙市医療・行政連携連絡会」を設置し、市民の方からの意見や要望等を踏まえた地域医療の課題等について意見交換を行っていますので、接遇向上に向けた改善を求めたいと思います。	
12	内小友公民館 病院は整備されたが、優秀な医師を配属するよう働きかける必要があるのではないか。	医師の確保については、大曲厚生医療センターのみならず全県的な課題であります。県では、資金貸与や医師臨床研修制度、女性医師の支援制度を設けるなどの取り組みを行っていますが、市としても、これまで以上に関係機関との連携を密にして、医師の確保を支援していきたいと思っています。大曲厚生医療センターにおいては、秋田大学等との連携強化を図るなど、医師の充足や診療体制の充実に取り組んでいると伺っております。	

No.	開催場所	いただいたご意見	市長からの回答
13		大仙市の税金は県内の市と比較して高いか。比較した分かり易い資料を公表して欲しい。	市の税率や手続き等については市のホームページ上でお知らせしていますが、他の自治体と比較を行った資料はありませんので、今後、公表を検討したいと思います。
14	角間川公民館	3.11の震災後、災害発生時の市の広報のあり方について検討されたか。給水場所についても検討したか、知らせてほしい。	東日本大震災の教訓を受け、市では、災害時の緊急速報メールの配信を開始したほか、人工衛星を用いて国から直接情報を送信するJアラートの導入に向けた準備を行っています。 また、給水車による給水は、水道施設の復旧に時間がかかる場合に行いますが、その実施場所は、市内の被害状況を考慮した上で、市役所支所や学校の校庭のように、人が並ぶことのできる広さや、駐車場が一定程度確保できること、公共施設等のわかりやすい場所であること等の条件に合った場所を選択することとしています。
15		冬のスポーツ施設の整備を要望する。スケート場などを整備し、まちの活性化を図ってほしい。	市では現在、冬季スポーツの推進のため、小・中学生に市内スキー場リフト共通シーズン券を無料配布し、スキー人口の増加と地域経済の活性化を図っていますが、今後も様々なご意見をいただきながら、冬季スポーツの環境整備を検討していききたいと思います。なお、現在大曲西道路の橋脚下を利用し、年間を通して利用できる多目的広場の整備を県が進めており、今年度中に工事が完了し来年度から利用可能になると伺っております。
16		角間川地区に久しぶりに農業後継者が誕生した。この後も支援を願いたい。	将来の地域農業を担う新規就農者の育成や確保は重要な課題ですので、今後も引き続き、県やJAなどの関係機関との協力の下、栽培技術や経営の指導などの様々な支援を行っていききたいと思います。
17	神岡地域	福島、宮田地区の基盤整備事業（約60ha）は採択が5年先と言われている。一刻も早く整備されるよう要望する。	現在、事業主体である県への要望を行っているところですが、全体的に要望が集中しており、採択までは至っていませんので、今後も引き続き、早期採択に向けて県に要望していききたいと思います。
18		県の政策に対応できるような基盤整備計画をされるようにしていただきたい。	県営ほ場整備事業については、現在市内の12地区で事業を実施しており、今後はさらに、神岡地域の福島・宮田地区を含めて12地区で実施を予定しています。引き続き、地域のご要望やご意見等をふまえ、県の政策に対応しながら、順次計画的に進めていききたいと思います。
19		旧町村の道路整備に力を入れてほしい。圃場整備事業で幹線道路用地として創設した用地がいまだに整備されないで、管理が大変になっている。いつまで地域で管理すればよいのか。整備の方向付けをしてほしい。	ほ場整備事業で創設された中仙地域の2箇所の用地は、現在策定中の次期総合計画の中で利用方法を検討していきますが、当面の管理については、地域の環境保全推進のために実施される「多面的機能支払交付金事業」により、各地域の皆様と十分協議し実施していききたいと思います。
20		税の申告会場について、休日に行ったところ、待合室に暖房がなく大変寒い思いをした。対策を検討してほしい。	申告会場の中仙支所は、庁舎全体の暖房設備を備えていますが、故障のため十分な暖房を設置できず、大変申し訳ありませんでした。次回からは暖房設備の整った場所でお待ちいただけるよう準備しますので、今後ともご協力くださるようお願いいたします。
21		自主防災組織を行政の指導により作ったが、どのような活動をすればよいのかが良くわからない。指導を強化してほしい。	大規模な災害が発生した場合、行政による対応だけでは限界があり、すべての地域で早期に実効性のある対策を採るのが難しい場合もあります。自主防災組織は、そのような場合に備え、自分たちの地域は自分たちで守るという自覚や連帯感に基づき、日頃からの防災活動や災害時の避難誘導等の活動を行っていただくために結成される組織です。市では、防災出前講座や研修会等の活動支援を行っていますので、これらをご活用いただきながら、それぞれの地域の実情に合った活動をお願いしたいと思います。
22	中仙地域	地域のあるべき姿をみんなで作るべきと思う。地域の発展計画を創るべきと思う。	市では、合併からこれまでの取り組みを総括するとともに、地域を目指す方向とそれを実現する具体的な取り組みを、次期総合計画に定めることとしております。また、各地域の10年先を見据えた新たな地域振興計画を次期総合計画の中に「地域編」として取り入れることとし、現在各地域協議会において協議が進められております。これらの計画については、市民の皆様からいただいたご意見を十分反映し、地域のあるべき姿を地域全体で考えていききたいと思います。
23		農協によるメガ団地事業が進んでいるが、地域活性化のために上手くいってほしい。そのためには実際に運営する会社《法人》の経営指導を市としてもしっかりとやってほしい。	中仙地域の園芸メガ団地整備事業は、県、JA、市が連携して、栽培技術の習得に対する支援を実施しているほか、試験栽培の費用を助成して、本格栽培に向けた準備を進めています。計画どおりに経営が軌道に乗り、安定した収穫量と品質が確保できるよう、県やJAと連携を密にしながら、指導と支援を継続していききたいと思います。
24		八乙女野球場スタンドのサビとカビがすごい。市外からの来場者も驚いている。速急に補修してほしい。	市内の他の球場も同じような状況となってきたことから、ベンチの破損など危険と思われる箇所を優先的に補修していますが、今後は順次、付着した汚れや塗装剥離も含めて、環境整備に努めていきます。
25		通学路のライン引きについて、2年前からお願いしているが、まだ検討中か知らせてほしい。	新山囲ノ内線は、当初は側溝改良工事が予定されていたことから、その完成後に外側線を設置することとしていましたが、実施まで至っていませんでした。代替手段として、平成27年度中にグリーンベルトを設置することで、児童や生徒の安全を確保したいと思っています。
26		坂の上橋を車が通るたびに、すごい音がする。直してほしい。	坂の上橋は、早急に補修が必要な橋りょうの一つとして、現在設計を進めている段階で、平成27年度には補修工事を実施したいと考えています。なお、補修工事を実施するまでの間は、引き続き舗装などの応急措置を行います。



No.	開催場所	いただいたご意見	市長からの回答
27	西仙北地域	中国からのPM2.5についてどういう対策を考えているのか。	中国の大気汚染が深刻化していることを受け、県では大気中の微少粒子状物質（PM2.5）の観測を強化しており、市でも、県の測定結果に基づき、必要に応じてマスクの着用や不要な外出の自粛などを呼びかけることとしています。
28		畑などの耕作放棄地について、市のネットワークで市民に提供するというようなことは考えていないのか。	農業委員会では、耕作放棄地などの遊休農地の調査を行っており、市としても、その有効活用を図っていくことが重要だと考えていますので、所有者の方の承諾を得られたものについては、市のホームページ等での公開を検討したいと思います。
29		企業誘致活動を行う際に管内の企業関係者（商工会や農協）を同行させたらどうか。	市では、地元企業への支援策や新規企業進出の情報を得た際には、必要に応じて、商工団体や農協等と連絡を取り合いながら活動しています。地域における雇用の場を創出することは、定住を促進する上でも特に重要ですので、今後も関係団体との連携を密にして活動していきたいと思っています。
30	太田地域	小さい子ども達を守らなければならない、一人で歩いていると、非常に危険、どう守っていくか考えてほしい。	市では、定期的な危険箇所の調査や防犯パトロールのほか、見守り隊による学校周辺での声かけなどを行っています。今後も警察を始め、ご家庭や地域の皆様のご協力をいただきながら、地域全体で子どもたちの安全を守っていききたいと思います。
31		空き家を、ふるさとへ帰ってきた人の滞在場所にできないか。	空き家は個人の財産ですので、市の所有物として、帰省された方への一時的な滞在場所として提供するためには、多額の管理費用等が生じることになります。このような点を踏まえ、定住促進に関する施策の一環として、慎重に検討したいと思います。
32		移動販売車が減っている。年間いくらでもいいから、補助していただけないか。	平成26年度から、南外地域外小友地区を対象に、毎週火曜日と土曜日に移動販売車を委託運行しています。今後はこの効果を検証し、他の地域への展開も検討していきたいと思っています。
33		地域スポーツクラブの助成金が少なくなった。財政面で厳しくなったので、支援をお願いしたい。	地域スポーツクラブについては、日本スポーツ振興センター（スポーツ振興くじ助成）のクラブ運営費助成の減額により財政面への影響が出てきております。心身ともに健康で活力のある生活を送るため、スポーツ振興は大変重要ですので、スポーツクラブの自立に向けた財政的な支援や、地域スポーツ施設の維持管理の将来的な指定管理委託、また、活動拠点となる地域公共スポーツ施設の整備など、様々な形で支援を検討していきたいと思っています。



市民の声

合併後10年を経過し、当初あつた地域エゴ丸出しの議論は少なくなったと聞く。市政全体を考えた方向に動いているのは前進といえる。

26年度の「市政懇談会」が6月に開催され、初めて出席した。平日の午後のせい参加者は少ない。25年度のアンケートを見ても、60歳代、70歳代の人ほとんどで、いわば第一線を退いた人々の集まりの感がある。ある意味では、この会がセレモニー化しているのではないかと。（議員の皆さんが個々に懇談会を開催していれば別だが）

大切な市政を考え、意見交換する場がもつと開催され、各年代の人が参加できるよう工夫していくことが大切と思う。

政府は「地方創生」を掲げ、特色あるまちづくりをする地方に補助金等の支援を強化するようだ。以前から言われたことだが、行政の発想力・創造力が強く問われている。当市では新聞によれば、実質公債費比率が全県一高いし、将来負担比率も全県で飛び抜けて高い。その他、農業の問題、少子化対策など問題山積である。

このような大変な時期であり、市民全体で諸問題を共有することも大切だろう。市議会も市当局も市民との意思疎通を図り、難局を克服する道しるべを示してもらいたい。

大曲地域 大友 康夫

3月定例会日程のお知らせ

- 2月24日(火) 本会議第1日
(施政方針演説・議案上程等)
- 3月4日(水) 本会議第2日 (一般質問)
- 5日(木) 本会議第3日 (一般質問)
- 3月6日(金) 本会議第4日
(当初予算質疑・議案質疑・委員会付託)
- 9日(月)・10日(火)・11日(水) 常任委員会審査
- 17日(火) 本会議第5日
(委員長報告・質疑・討論・表決)

※現時点での予定であり、変更される場合があります。
変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。

皆様の傍聴をお待ちしています。

議長交際費 (10月1日～12月31日)

項目	件数	金額
予算額		900,000円
支出済額	46件	405,858円
今回支出額	24件	199,506円
内訳	弔慰	2件 30,000円
	慶祝	13件 75,000円
	協賛	9件 94,506円
予算残額		294,636円

用語の解説

【特別委員会】

常任委員会のほかに、特定の事柄について審査するため臨時に設置される委員会で、特に重要な問題で、集中的に審査する場合などに設置されます。

大仙市の歴史巡り (太田地域)

龍像院・義民の碑



雲昌山龍像院(太田町駒場字中村)



義民の碑「宥赦石」(左)、「餓死亡霊墓」(右)

龍像院は秋田市下浜の「珠林寺」の3世が末寺として、駒場に初代住職で開創しています。現在の住職山谷尚円氏は28世となります。

境内山門の傍らに「宥赦石」と呼ばれる自然石の「義民の碑」があります。享保年間(1716～1736年)には佐治兵衛氏(戒名＝一参了無居士)が、文政年間(1818～1829年)には佐佐衛門氏(戒名＝見翁寿性居士)がそれぞれ、肝煎(村の代表有力者)として、不作や凶作によって疲弊する村や貧困に苦しむ村人を見て、年貢の減免願いを時の藩主に直訴。願いは聞き入れられ、村人は救われましたが、2人は直訴の罪に問われ、投獄されました。

佐治兵衛氏は1744年(延享元年)に獄死、佐佐衛門氏は出獄後ほどない1832年(天保3年)に自宅で死亡しています。「義民の碑」は2人の偉業をたたえ、1830年(文政13年)に建立されたようです。

また、「義民の碑」と並んで、飢饉による「餓死亡霊墓」があり、2つの碑は、豊かな仙北平野と農村の営みをじっと見つめている。(佐藤文子 記「太田町史より」)



あけましておめでとうございませう。皆さまにおかれましては健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は大仙市においては豪雪に端を発した痛ましい事故はあったものの、大きな自然災害はなく比較的平穏な年でありました。全国的に見れば関東圏の豪雪にはじまり、各地で猛威を振るった台風、そして広島県の土砂災害と御嶽山の噴火、長野県における最大震度6弱の地震など大きな災害が多く、自然の猛威を前に、いかに人間とは無力なものなのか思い知らされました。これら起きてしまった災害を忘れることなく、災害に学び、「防災・減災・逃災」の観点から災害を乗り越える術を次の世代にしっかりと引き継ぐことも、今を生きる我々の大切な役目だと強く感じた一年になりました。

今年一年大仙市はもとより、日本にとっても穏やかでより良い年となりますようお祈りいたします。

議会報編集委員会

委員長 茂木 隆
副委員長 細谷洋造
委員 秩父博樹
後藤 健
佐藤育男
佐藤文子
古谷武美
本間輝男

(後藤 健)